



Business Report

ONO'S VIEW

第71期 第2四半期のご報告

2018年4月1日～2018年9月30日

小野薬品工業株式会社

証券コード 4528

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第71期第2四半期累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」が薬価制度の抜本改革による薬価改定の影響を受けましたが、一昨年度の腎細胞がん、頭頸部がん、昨年度の胃がんへの効能追加等で使用が拡大したことと、オブジーボに係るロイヤルティ収入の増加や2型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」等の主要新製品が堅調に推移したことで、売上収益は増収となりました。

利益面につきましても、製品商品の売上増に伴い売上原価が増加し、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費も増加しましたが、ロイヤルティ収入等が大きく増加したことから増益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、国内においては医療費を抑制するための種々の薬剤費抑制政策が推し進められており、厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、将来の海外事業の拡大にむけて、次のとおり取り組んでいきます。

成長戦略

製品価値 最大化	積極的な研究開発活動、全社を横断する部門間連携と人財育成機能の強化により、早期の上市および効能追加取得、上市から最短でのピークセールス達成を図ります。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現することにより、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。
R&Dの変革	独自の創薬手法「化合物オリエント」を基盤に、医療ニーズの高いがんや免疫疾患、中枢神経疾患を重点領域に捉えて、医療現場に革新をもたらす新薬の創出を目指します。そのために、特定の研究分野で世界をリードする大学や研究機関、バイオベンチャー企業との研究・創薬提携を強化・拡充し、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。また、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得も積極的に進めています。
海外への挑戦	自社で生み出した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗がん剤などのスペシャリティー製品について、海外での自社販売を目指して取り組んでいます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しています。欧米については、今後の自社販売活動を視野に入れて、開発体制などの整備・強化に努めています。
企業基盤の強化	海外市場での事業を拡大し、厳しい企業間競争を勝ち抜くため、継続的に企業基盤の強化に取り組んでいます。さまざまな環境の変化に対応し、競争に打ち勝つため、人財育成や多様性向上を進めるなど、体制の強化を図っています。すべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たすべく、重点領域での活動を推進しています。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





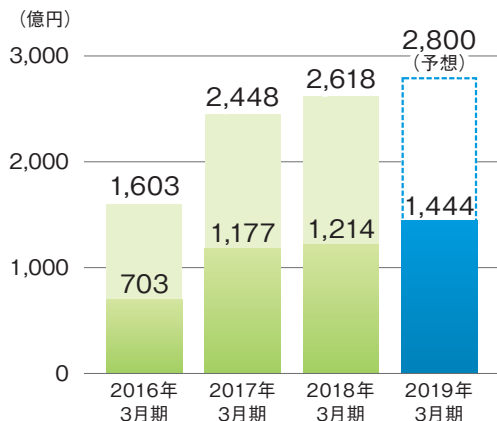
1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁

売上収益

1,444億円 前年同期比 **18.9%増**

通期 → 
第2四半期累計 → 





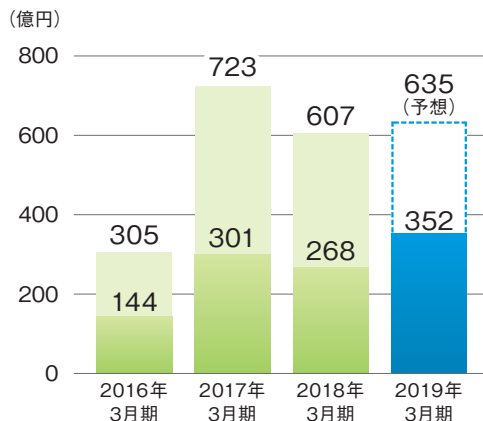
オプジーボの国内売上の増加に加え、ロイヤルティ収入の大幅増で増収

「オプジーボ点滴静注」は本年4月に薬価が約24%引き下げられたものの、腎細胞がん、頭頸部がん、胃がん等での使用拡大により売上が前年同期比48億円増加しました。また、ロイヤルティ収入も大幅に増加した結果、当第2四半期累計期間の売上収益は前年同期比230億円(18.9%)増の1,444億円となりました。

営業利益

352億円 前年同期比 **31.2%増**

通期 → 
第2四半期累計 → 

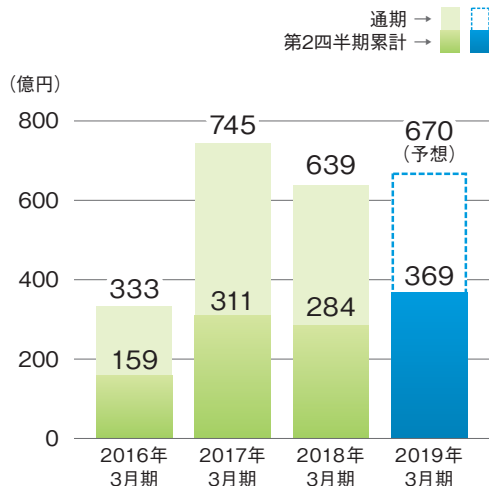


売上原価、販売費及び一般管理費が増加するも売上収益拡大により増益

製品商品の売上拡大に伴い売上原価が増加、研究開発費においては「オプジーボ点滴静注」関連費用や創薬提携に係るライセンス料が増加、また「オプジーボ点滴静注」「フォーガ錠」等の主要新製品に係る営業経費も増加したものの、売上収益の増加により、当第2四半期累計期間の営業利益は前年同期比84億円(31.2%)増の352億円となりました。

税引前四半期利益

369億円 前年同期比 **30.0%増**

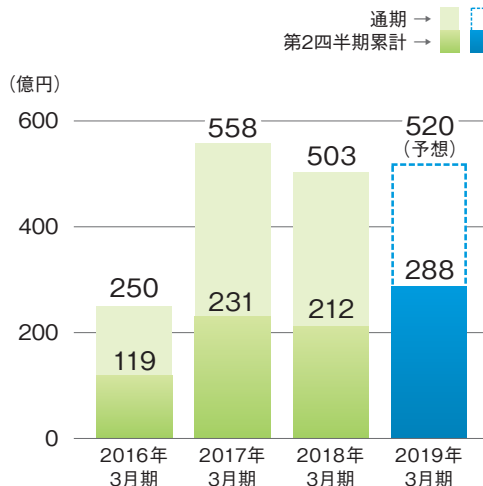


金融収支等が前年同期よりも増加、 営業増益にプラスとなり、増益

金融収支等は前年同期比2億円増の18億円となり、当第2四半期累計期間の税引前四半期利益は、前年同期比85億円(30.0%)増の369億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

288億円 前年同期比 **36.0%増**



税引前四半期利益の増加に伴い、 増益

当第2四半期累計期間の親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比76億円(36.0%)増の288億円となりました。

連結業績ハイライト

財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2018年3月31日	当第2四半期会計期間末 2018年9月30日
流動資産	209,464	217,641
非流動資産	399,761	422,552
資産合計	609,226	640,193
負債合計	79,607	70,153
資本合計	529,619	570,040
負債及び資本合計	609,226	640,193

損益の状況

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 自2017年4月1日 至2017年9月30日	当第2四半期累計期間 自2018年4月1日 至2018年9月30日
売上収益	121,446	144,395
売上総利益	90,955	102,767
販売費及び一般管理費	△ 32,592	△ 34,206
研究開発費	△ 31,416	△ 33,048
営業利益	26,789	35,151
税引前四半期利益	28,393	36,917
四半期利益	21,287	28,883
親会社の所有者に帰属する四半期利益	21,210	28,845

連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する持分	非支配 持分	資本 合計
2018年4月1日残高	17,358	17,175	△38,148	68,021	459,985	524,390	5,228	529,619
会計方針の変更					4,127	4,127		4,127
修正再表示後の残高	17,358	17,175	△38,148	68,021	464,112	528,517	5,228	533,746
四半期包括利益合計	—	—	—	17,678	28,845	46,523	48	46,571
所有者との取引額等合計	—	13	△ 2	△ 380	△ 9,902	△ 10,271	△ 5	△ 10,276
2018年9月30日残高	17,358	17,188	△38,149	85,318	483,055	564,769	5,271	570,040

※IFRS15号の適用にあたり、当社グループは経過措置として認められている累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用したため、期首の利益剰余金を調整しております。

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 https://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir_library.html

小野薬品 IR

検索

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

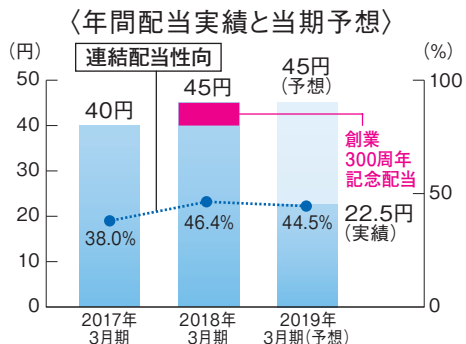
	前第2四半期累計期間 自2017年4月1日 至2017年9月30日	当第2四半期累計期間 自2018年4月1日 至2018年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,382	35,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 36,147	△ 11,952
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 49,591	△ 10,514
現金及び現金同等物の増減額	△ 96,121	13,125
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	69	129
現金及び現金同等物の四半期残高	50,272	78,527

主要経営指標

	前期末 2018年3月31日	当第2四半期会計期間末 2018年9月30日
親会社所有者帰属持分比率 (%)	86.1	88.2
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	1,019.97	1,098.51

	前第2四半期累計期間 自2017年4月1日 至2017年9月30日	当第2四半期累計期間 自2018年4月1日 至2018年9月30日
基本的1株当たり四半期利益 (円)	40.63	56.11

中間配当金について



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき22.5円とさせていただきました。なお、当期の期末配当金につきましても、1株につき22.5円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき45円を予定しています。

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率	2017年度 売上高(実績) (億円)	2018年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	454	+11.9%	901	900	△0.1%
グラクティブ錠	137	+0.1%	274	260	△5.1%
オレンシア皮下注	86	+26.8%	141	170	+20.3%
フォシーガ錠	70	+33.1%	111	145	+31.0%
オパルモン錠	55	△26.8%	144	105	△26.9%
イメンド／プロイメンド	53	+6.6%	99	105	+5.5%
リカルボン錠	44	△19.0%	109	75	△31.3%
リバスタッチパッチ	45	+1.4%	89	90	+1.3%
カイプロリス点滴静注用	26	△4.6%	55	65	+17.4%
パーサビブ静注透析用	27	+98.8%	34	55	+60.4%
オノンカプセル	19	△19.7%	55	45	△17.6%
オノアクト点滴静注用	22	△19.6%	56	40	△28.8%
ステーブラ錠	19	△9.0%	41	35	△15.3%
オノドライシロップ	12	△19.2%	33	25	△25.0%

「オプジーボ®点滴静注」、新たな効能・効果を承認取得

抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」は本年8月、悪性胸膜中皮腫と悪性黒色腫の術後補助療法、および抗CTLA-4抗体「ヤーボイ®点滴静注液」との併用療法における化学療法未治療の腎細胞がんに対する適応拡大の承認を取得しました。悪性胸膜中皮腫の適応取得で、「オプジーボ®点滴静注」は国内で7つのがん腫で使用できるようになりました。

「オパルモン®錠」、タイにおいて承認取得

本年6月に、経口プロスタグランジンE₁誘導体制剤「オパルモン®錠（一般名：リマプロストアルファデクス）」について、タイ王国保健省食品医薬品庁より、腰部脊柱管狭窄症ならびに閉塞性血栓血管炎の適応で輸入販売承認を取得しました。

売上収益

2,800億円 前期比 **6.9%増**

薬価改定や後発品使用促進策の影響は受けましたが、「オブジーボ点滴静注」が堅調に推移するとともに、「オレンシア皮下注」「フォーシーガ錠」などの主要新製品の売上拡大を見込んでいます。また、ロイヤルティ収入の伸長も見込んでおり、通期の売上収益は、前期比182億円(6.9%)増の2,800億円を予想しています。

営業利益

635億円 前期比 **4.6%増**

売上原価は、製品商品の売上増に伴い、増加する見込みです。研究開発費は持続的な新薬創出に向けての積極的な投資により増加を見込んでいます。販売費及び一般管理費は「オブジーボ点滴静注」などに係る活動経費が増加すると見込んでおり、通期の営業利益は、前期比28億円(4.6%)増の635億円を予想しています。

税引前当期利益

670億円 前期比 **4.8%増**

金融収支は前期比3億円の増加の35億円を見込んでおり、通期の税引前当期利益は、前期比31億円(4.8%)増の670億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

520億円 前期比 **3.4%増**

税引前当期利益の増加を31億円、また法人税等の増加を14億円見込んでいることから、通期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比17億円(3.4%)増の520億円を予想しています。

研究開発活動・開発品の主な進捗状況

研究開発活動

わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」ことを研究開発理念とし、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

開発品の主な進捗状況

(2018年10月29日現在)

国内	製品名(開発コード)/一般名	予定効能	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	ONO-7702/エンコラフェニブ	悪性黒色腫				
	ONO-7703/ビニメチニブ	悪性黒色腫				
	ONO-5371/メチロシン	褐色細胞腫				
	オノアクト点滴静注用/ランジオロール	心室性不整脈				
	リバスタッチパッチ/リバスタグミン	アルツハイマー型認知症(剤型変更)				
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	食道がん				
		食道胃接合部がん及び食道がん				
		小細胞肺癌				
		肝細胞がん				
		膠芽腫				
		尿路上皮がん				
		卵巣がん				
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	大腸がん				
		非小細胞肺癌				
		小細胞肺癌				
		頭頸部がん				
		胃がん				
		悪性胸膜中皮腫				
	カイトロス点滴静注用/カルフィルゾミブ	食道がん				
		尿路上皮がん				
	ONO-7643/アナモレリン	多発性骨髄腫(用法・用量変更)				
	ONO-7702/エンコラフェニブ	がん悪液質				
	ONO-7703/ビニメチニブ	大腸がん				
	ONO-7701	大腸がん				
	オレンシア点滴静注用/アバタセプト	悪性黒色腫				
	オレンシア皮下注/アバタセプト	ループス腎炎				
		未治療の関節リウマチ				
		一次性シェーグレン症候群				
	ONO-1162/イバブラジン	多発性筋炎・皮膚筋炎				
	ONO-5704	慢性心不全				
	オノアクト点滴静注用/ランジオロール	変形性関節症				
		心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)				
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	敗血症に伴う頻脈性不整脈				
		固形がん(子宮頸がん、子宮体がん及び軟部肉腫)				
		中枢神経系原発リンパ腫/精巣原発リンパ腫				
		多発性骨髄腫				
		膵がん				
		ウィルス陽性・陰性固形がん				
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	敗血症				
	ONO-4687/Cabiralizumab	ウィルス陽性・陰性固形がん				
	ONO-4059/チラプルチニブ	膵がん				
		原発性マクログロブリン血症/リンパ形質細胞リンパ腫				
		中枢神経系原発リンパ腫				

国内	製品名(開発コード)/一般名	予定効能(地域)	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	ONO-4686	固形がん	▶	▶		
	ONO-4482/Relatlimab	悪性黒色腫	▶	▶		
	ONO-7807	固形がん	▶	▶		
	ONO-2370/オピカボン	パーキンソン病	▶	▶		
	ONO-5704	腱・靭帯付着部症	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	胆道がん	▶	▶		
	ONO-4481/Urelumab	固形がん	▶	▶		
	ONO-4483/Lirilumab	固形がん	▶	▶		
	ONO-4578	固形がん	▶	▶		
	ONO-7705	多発性骨髄腫及び非ホジキンリンパ腫	▶	▶		
	ONO-7475	固形がん	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	自己免疫疾患	▶	▶		
	ONO-7269	脳梗塞	▶	▶		
国外						
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	膠芽腫(欧米) 小細胞肺癌(欧州・韓国・台湾) 胃がん(欧米) 食道がん(欧米・韓国・台湾) 肝細胞がん(欧州・韓国) 多発性骨髄腫(欧米) 食道胃接合部がん及び食道がん(欧米・韓国・台湾) 悪性胸膜中皮腫(欧米) 卵巣がん(欧米) 大腸がん(欧州)	▶	▶		
	ヤーボ点滴静注/イピリムマブ	腎細胞がん(台湾) 非小細胞肺癌(韓国・台湾) 小細胞肺癌(韓国・台湾) 頭頸部がん(韓国・台湾) 胃がん(韓国・台湾) 食道がん(韓国・台湾) 尿路上皮がん(韓国・台湾)	▶	▶		
	ONO-7702/エンコラフェニブ	大腸がん(韓国) 悪性黒色腫(韓国)	▶	▶		
	ONO-7703/ビニメチニブ	大腸がん(韓国) 悪性黒色腫(韓国)	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(欧米) 濾胞性リンパ腫(欧米) 中枢神経系原発リンパ腫/精巣原発リンパ腫(欧米) 前立腺がん(欧米) 膵がん(欧米・韓国・台湾) 固形がん(トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵臓がん、小細胞肺癌、尿路上皮がん、卵巣がん)(欧米) ウィルス陽性・陰性固形がん(欧米・韓国・台湾)	▶	▶		
	ヤーボ点滴静注/イピリムマブ	ウィルス陽性・陰性固形がん(韓国・台湾)	▶	▶		
	ONO-4687/Cabiralizumab	膵がん(韓国・台湾)	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	B細胞リンパ腫(欧州) シェーグレン症候群(欧米)	▶	▶		
	ONO-4578	固形がん(欧米)	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	血液がん(T細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性白血病、他)(欧米) 慢性骨髄性白血病(欧米) C型肝炎(欧米) 敗血症(米国)	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	B細胞リンパ腫(米国)	▶	▶		
	ONO-7475	急性白血病(米国)	▶	▶		
	ONO-5788	先端巨大症(米国)	▶	▶		

※抗がん剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(開発ステージ)を記載しています。

提携活動

■ 武田薬品工業株式会社と開発提携

2018年8月に、当社と武田薬品工業株式会社は、当社の抗PD-1抗体「オブジーボ」と、武田薬品工業株式会社が米国エクセリクス社から日本における開発提携および独占的販売権を取得しているマルチキナーゼ阻害剤「カボザンチニブ^{※1}」について、日本における腎細胞がんに対する両剤の併用療法に関する開発を協力して実施することを発表しました。

本提携に基づき、当社と武田薬品工業株式会社は、未治療の進行性または転移性の腎細胞がんを対象とした両剤併用療法の有効性および安全性を検討する第Ⅲ相臨床試験を日本において開始しました。

※1 カボザンチニブ・・・米国で「進行性腎細胞がん」、EU、ノルウェー、アイスランド、オーストリア、スイス、韓国では「血管内皮増殖因子標的療法での前治療歴のある進行性腎細胞がん」の治療薬として販売されています。

■ クロビス社との開発提携契約締結

2018年8月に、米国クロビス社と同社のPARP阻害剤「ルカパリブ^{※2}」と当社の抗PD-1抗体「オブジーボ」について、日本、韓国、台湾において卵巣がん、乳がんおよび前立腺がんを含む複数のがん腫に対する両剤の併用療法に関する開発提携契約を締結しました。

クロビス社は、米国、欧州およびその他の国際的な市場において、革新的な抗がん薬の取得、開発および商業化に注力するバイオ医薬品会社です。

本契約により、現在、海外で当社のパートナー企業であるブリストル・マイヤーズ スクイブ社とクロビ

ス社が計画および実施している「オブジーボ」と「ルカパリブ」の併用療法における有効性および安全性を検討する臨床試験に、当社が日本、韓国および台湾において参画していきます。

※2 ルカパリブ・・・米国において「プラチナ療法による化学療法で完全奏効もしくは部分奏効中の再発上皮性卵巣がん、卵管がん、腹膜がん」の維持療法などで承認されています。



クロビス社

提携活動

■ フェイト社との創薬提携契約締結

2018年9月に、米国フェイト・セラピューティクス社(以下「フェイト社」)とがんを対象としたiPS細胞由来他家CAR-T細胞治療薬の創製を目的とする創薬提携契約を締結しました。

フェイト社は、がんおよび免疫疾患においてファーストインクラスの細胞療法の開発に特化したバイオベンチャー企業で、iPS細胞を用いた他家細胞療法治療薬創製の先駆的企業です。

本契約により、フェイト社独自のiPS細胞製品プラットフォーム^{※3}を駆使し、当社が選択した2つの創薬標的に対するiPS細胞由来他家CAR-T細胞治療薬を創製します。1つ目のCAR-T細胞治療薬は血液がんを対象とし、2つ目のCAR-T細胞治療薬は固形がんを対象としています。

※3 フェイト社独自のiPS細胞製品プラットフォーム…既存の抗がん剤との併用を含め、より効果的な薬理活性を達成するために、繰り返し投与することができる均一かつ改変された他家細胞製品の大量生産を可能にするものです。



フェイト・セラピューティクス社

長期収載品の一部を承継

■ 長期収載品(注射剤5ブランド11品目)を丸石製薬株式会社へ承継

2018年10月に、当社が保有する長期収載品の中で、注射剤である「カタクロット[®](4品目)」、「エフオーワイ[®](2品目)」、「エラスポール[®](1品目)」、「プロスタルモン[®](2品目)」、「プロスタンディン[®](2品目)」の計5ブランド11品目について、日本における製造販売承認を丸石製薬株式会社へ承継することを発表しました。

両社は、承継を滞りなく完了するために協働しながら業務移管を進め、2018年12月1日より丸石製薬株式会社が当該製品の製造販売ならびに医療機関に対する情報提供活動を開始する予定です。また、当社は、当該製品ならびにそれらの原薬に関する海外企業とのライセンス契約・供給契約についても、丸石製薬株式会社に譲渡します。

■ 会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,576名(連結) 3,292名(単体)

■ 主要な事業所

本社	〒541-8564 大阪府中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔 登記簿上の本店所在地 大阪府中央区道修町二丁目1番5号 〕
事業所	北海道、宮城、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、高松、広島、福岡ほか全国主要都市
工場	城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユーエスエー インク(米国ニュージャージー州) オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北)

■ 役員

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 副社長執行役員	栗田 浩
取締役 専務執行役員	佐野 敬
取締役 常務執行役員	川瀬 和一十
取締役 常務執行役員	小野 功雄
社外取締役	加登 豊
社外取締役	栗原 潤
社外取締役	野村 雅男
常勤監査役	西村 勝義
常勤監査役	藤吉 信治
社外監査役	作花 弘美
社外監査役	菱山 泰男

株式の状況 (2018年9月30日現在)

■ 株式数

- 発行可能株式総数 1,500,000,000株
- 発行済株式の総数 543,341,400株
(自己株式29,157,899株を含む)

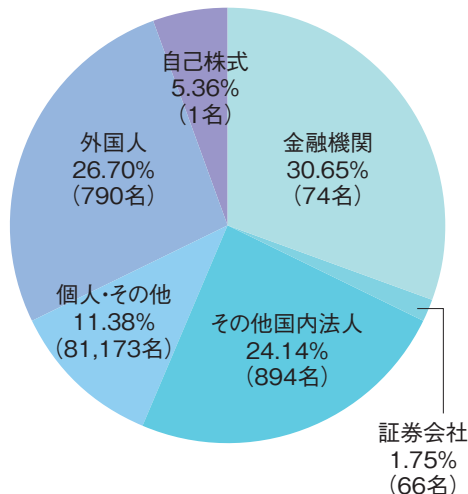
■ 株主数 82,998名

■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,305	6.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,684	5.77
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	21,930	4.26
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.61
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.19
株式会社鶴鳴荘	16,161	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	9,205	1.79
株式会社三菱UFJ銀行	8,640	1.68
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,606	1.67
ステートストリートバンクウェストクライアントトリーティ 505234	6,920	1.34

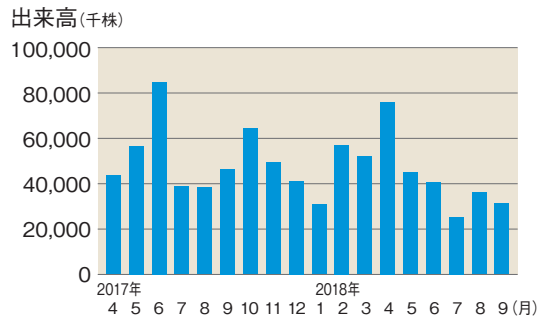
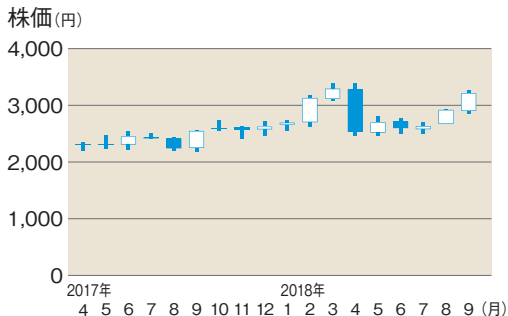
- (注) 1. 当社は自己株式29,157千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式(29,157千株)を控除して算出しています。

■ 所有者別の株式分布状況



(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

■ 株価および株式売買高の推移



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
定時株主総会	6月中	および特別口座 の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日	株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス https://www.ono.co.jp/	郵便物送付先 および 各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード4528)	同 取 次 窓 口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
単元株式数	100株		

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますので、株主様のマイナンバーにつきましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、株主様のマイナンバーは支払調書に記載して税務署へ提出いたします。

- **マイナンバーを記載する主な支払調書**
 - ・配当金に関する支払調書
 - ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

- **証券口座にて株式を管理されている株主様**
お取引の証券会社までお問合せください。
- **証券会社とのお取引がない株主様**
下記のフリーダイヤルまでお問合せください。
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ホームページアドレス

<https://www.ono.co.jp/>

